

高等学校グランドデザイン会議第2回西北・中南地区部会概要

日時：平成18年12月11日（月）

13：30～16：00

場所：五所川原市中央公民館第3会議室

<出席者>

野呂部会長 竹林副部会長 尾崎委員 木村委員 工藤委員 櫻庭委員 藤田委員

開会

司会

それでは定刻になりましたので、「高等学校グランドデザイン会議 第2回西北・中南地区部会」を開会いたします。次第によりまして、検討会議及び専門委員会の概要について事務局より説明させていただきます。

検討会議・専門委員会概要説明

【事務局から、配布資料に基づき説明】

司会

それでは次第によりまして、意見交換に入りたいと思います。ここからは野呂部会長に進行をお願いしたいと思います。

意見交換

野呂部会長

それでは、これから協議に入りたいと思います。事務局から大分説明がありましたが、内容についての確認事項、あるいは質問がありましたらお願いします。

A委員

資料1の3ページに「校舎制」という言葉が出ています。何となくは分かるのですが、この言葉の意味を一応確認したいのです。学校自体はなくなっても校舎は残っているので、そこを借りるような形で分校とは別の対応の方法を取るという事でしょうか。

事務局

これから進めようとしている事を意識しているのだと思うのですが、例えば西北地区では平成19年度から深浦高校が木造高校深浦校舎になります。法的な制度上は分校なのですが、呼び名を「校舎」として、本校と分校の間を教員が行き来し、また子ども達同士が交流できるような事を考えながら、1学級規模の分校として導入して行こうという事です。

野呂部会長

その他にありませんか。それでは協議に入りたいと思います。予定では午後4時までですので十分に時間があります。前半と後半に分けて、前半は第1専門委員会の内容について、後半は第2専門委員会の内容について協議したいと思います。時間は50分程度ずつで、間に休憩を挟んで進めて行きたいと思います。

第1回目の地区部会の中で、地域の現状というものを踏まえながらというお話がありました。前に渡された資料等も御覧になったと思いますが、今進めているのが高等学校教育改革の第2次実施計画なのですが、我々が検討する平成21年度から平成30年度までの10年間の生徒数の推移を見ると、約2,700名が減少するという状況の中でどういうふうにすれば良いのかについて検討する事になっています。特に西北地区と中南地区を見ると、平成21年度から平成30年度の10年間で、西北地区では291名の減少、中南地区では770名の減少となっています。この10年間で見ると、青森県内では中南地区が一番の減少になります。学級数で見ると、現状のままでは10年間に県下全体では53学級の減少になります。地区毎に見ると、西北地区では6学級、中南地区では13学級の減少というのが現状のようです。

もう1つは、具体的に普通科と職業学科と総合学科の割合を見てみると、全国的には普通科は69.4%、青森県を除いた東北5県では普通科は61.8%、青森県の場合は普通科は58.5%です。県内の状況を地区毎で見ると大分違いがあるようで、普通科だけで見ますと、東青地区は68.7%で一番普通科の割合が高いようです。その他は三八地区は63.7%、上北地区は54%、中南地区は52%、下北地区は51.6%、西北地区は49.6%が普通科となっています。職業学科には工業、農業、水産、商業、家庭、看護などが入りますが、青森県で職業学科の割合が一番高いのは中南地区の44.3%で、後は上北地区で37.8%、三八地区で36.3%、西北地区で28%となっているようです。そういう大体の割合がある事と、これからの生徒数の減少を踏まえて、具体的に第1専門委員会の検討内容について話をして行きたいと思います。

まず最初に、1学年あたりの適正な学級数という事で、第1専門委員会の意見でも出ていますが、市部と町村部と分けているのですが、先程の事務局からの説明にもあったように、旧行政区という事を念頭に置いているのではないかと思います。これについてはまだ確認はしていませんが、4学級以上や6~7学級が望ましいというような学校規模についてはそこに説明があるように、高校教育の水準の維持や教員の配置のためには適正な学校規模という事が必要であり、それなりの学級数が必要だということだと思いま

す。1回目の地区部会で事務局の方に、どれくらいの学級数でどれくらいの教員数になるのかを尋ねたのですが、もう御存知かとは思いますが、4学級であれば教員の定数が28人、6学級であれば42人というように教員の定数が決められているようです。そういう事を頭に入れながら、検討をお願いし、意見をいただきたいと思います。

市部、町村部の高校の望ましい学級数や、普通科、職業学科、総合学科の望ましい学級数について、参考として高校長協会の意見もありますが、皆さんの意見をお願いします。

竹林副部長

これは1学年の学級数という事でしょうか。学校全体の数なのでしょうか。

野呂部長

1学年あたりです。

竹林副部長

前回の時にも、普通高校へ行きたいけれども行けないから専門高校に行くという子が非常に多いというお話がありました。西北地区も大体そういう傾向がある訳ですので、普通高校を多くする必要はあると思います。ただし、その際は普通高校と言ったら受験という事を考えておかないといけませんので、高校の先生に聞きたいのですが、何学級だと受験に対してある程度対応可能な人員の確保ができるのでしょうか。そこを踏まえておかないと、せっかく市部に進学校を作っても必要な教科の先生が来ないとなるとまずいでしょう。この高校長協会の意見では、6～8学級であれば受験指導に対応可能という事ですが果たしてそれでいいのでしょうか。先日の世界史の問題でも、世界史の先生がいなくて非常に困っているというお話も聞いています。

B委員

受験に対応できるかとなると、例えば一番問題なのは社会科と理科だと思います。社会科は今は地歴公民となっていますが、世界史、日本史、地理、現代社会、政治経済、倫理等のそれぞれの専門の先生がいた方がやはり良いです。理科でも物理、化学、生物、地学の4科目があります。最近は地学の専門の先生が少なくなっています。あるいは、地理の先生が少なくなっていると言われていています。受験に対応できるとなると、地歴公民や理科を専門に教えらる先生が必要ですので、そういう数を確保できるだけの規模が必要だと思います。

野呂部長

大体普通科の進学対応という事であれば、最低でも6学級は必要かと思います。

C 委員

先生の数と学級数のバランスは非常に専門的なので、なかなか想像がつきにくい所があります。ただ、見当違いな意見になるかもしれませんが、中学校に入ってすぐに将来は何になるの、高校に入ってすぐに将来は何になるのと聞かれても、正直言って生徒はあまり良く分からないまま成績のいい人はいい学校へ、そうでない人はこの学校でなければ入れないという形で行くのではないのでしょうか。かと言って、そういうように実業高校に行ってもすぐ会社で役に立つかと言うとそうではありませんので、その事を考えるとまず普通高校に入れるのであれば行った方がいい、というのが実態ではないかと感じます。少子化もあるでしょうし、大学のように実業高校を総合高校に全部まとめるとか、普通高校はそれなりにレベルを高くして徹底して上を目指す学校にするとかの考え方はしなくてははいけません。ただ、通学の距離が遠くなったりする傾向があるのでその対応をしなくてははいませんが、それこそ一部の高校ですが山田高校では五所川原にも迎えに来ますし、そういう対応を私立高校ではやっていますので、そういう事も考えてみた方が先生とかを確保し易くなったりするのかなという感じを持っています。

それから、単純に考えるとなのですが、学校の定足数に生徒が達していないのに不合格にします。せっかく勉強して入りたいと思って受験しているのに、片方では定足数に達していない、片方では不合格にする。という状態はなんとかならないのでしょうか。入りたくて受験している人がを不合格にして、なんとか定足数をいっぱいにする方法はないかというのには少し違和感を感じます。

それと、やはりある程度はレベルを上げて行かなくてははいけませんし、そして私立でやっていますが、不合格でも少しの差で普通高校を落ちて仕方なく私立の高校に入らなくてははいけないという人に対して、五所川原第一高校でも東奥義塾高校でも特進クラスを作って結構いい大学に入っています。そういう事からも、現状に合った高校に私立高校がいち早く対応しているのだなと感じます。そういう事を考えると、大変かもしれませんが、やはりまとめらる専門高校は工業でも商業でも農業でもまとめて普通高校は別に扱うという事も考えて行かなくてははいけません。農業の先生が工業を教えられるかという問題もあるでしょうが。前段階の対策を考えていかなくてははいけない感じがします。

A 委員

現状としては子ども達の進路を見ていると、普通高校が多い方がいいのです。普通高校に行きたいのですが、点数が少し足りないので次を探すと職業高校という事が現実問題として多いのです。ですから、やはり普通科を多くしてくれればいいなと思います。資料を見ますと高校長協会でも6～8学級がいいと書いてありますので、この辺がいい所ではないかと見ていました。

D 委員

第1専門委員会のこの考え方はいいと思います。学校あるいは生徒同士の付き合いを考えますと、やはり最低4学級は必要だろうと思います。5学級以上はそれぞれの状況に応じてやればいいのであって、少なくとも生徒同士の付き合い、あるいは先生の定数の確保をするためには最低4学級は必要でしょう。これでいいと思います。

ただ、今現在の高校の1学級は40人ですが、果たしてこのまま40人で行くのかという議論を各部会でやっていない気がします。少なくとも義務教育では定数を減らしてきている社会状況がありますので、そうなると高等学校も果たして40名ではなく、適正な人員がどれくらいなのかによって学級数の幅も先生の定数も違ってきます。基本はそこにあるのでしょうか。ただ、裏に回ると財政や地域の問題が色々あるので、それはそれとしても、やはり適正な学級の人員と学級数があるのですから、この学級数を下回らないように是非やっていただきたいと思います。

野呂部会長

資料8に各地区毎の募集人員が出ているのですが、例えば西北地区では弾力的募集で1学級35人としている学校がすごく多いです。鱒ヶ沢高校、板柳高校、金木高校、中里高校、鶴田高校、五所川原農林高校、五所川原工業高校、これらは全部35人募集ですね。

D委員

それでいいと思うのです。特に、中南地区においては私立高校があります。少子化によって、弘前地域においては東奥義塾高校、聖愛高校、柴田高校、弘前東高校があり、少なくともそれくらいの人数を確保しなくては私立高校が成り立たなくなります。ただ県立高校の事だけを考えるのではなく、やはり全体の事を考えなくてははいけません。中学校から高校に進学しようとする人数について、県立高校の事だけを考えるのは少しおかしいでしょう。私立高校は私立高校のいい所があるでしょうし、是非私立高校に行きたいという人もいます。その辺は後で問題になるのですが、やはりその地域というものを考えて行かなくてははいけません。去年から始めた前期・後期制で定員を確保した事は県立高校の苦肉の策だとは思いますが、それにより私立高校に生徒が入ってこなくなりかなりの欠員を生じたという結果がありますので、全体を考えながらやるべきだと思います。

野呂部会長

弾力化募集については今後の全体的な推移を見て検討するべきという事ですね。

D委員

政策的な問題があるのでね。

野呂部会長

中南地区は、岩木高校、柏木農業高校、弘前工業高校が35人募集ですね。

事務局

この資料は平成20年度の姿として書いてありますので、現状では西北地区の金木高校はまだ40人募集ですが、将来はこうなります。

C委員

4～8学級とありますが、3学級だとどういふ弊害があるのですか。9学級だとどういふのですか。

野呂部会長

多ければそれにこした事はないのですが、その分だけ他の学校の生徒数が少なくなると完全になくなる学校も出てきます。要するに、1つの学校の定員が多くなってしまうと、その地区であれば何百人規模の学校が1校なくなってしまうおそれがあるのです。

C委員

そういう事なのですね。3学級だとどういふのでしょうか。

D委員

1学級が減る事によって、県の決めた先生の数が違ってくるのだと思います。2～3学級となると教科の先生が確保できるのかという問題があり、大体4学級あれば平均的に教科の先生が張り付くのだろうと理解しています。

野呂部会長

本来はやはり理科、社会科もそうですし、それと今各学校で行っている英語や数学の習熟度別は学級が複数になってしまいます。例えば、2学級を3つに分けて同時に授業をしている場合は英語の教員が1学年に3人必要になりますので、そうするとどうしても教員数が大事なのです。

C委員

予算という問題を除けば、私達は1学級43人とか44人で育ってきました。これが将来1学級35人、また30人になるとどういふのでしょうか。少ない方がいいのでしょうか。私達の時代には1学級の人数が多すぎて、誰が誰か分からない状態で授業をやっていて、その時に先生は、将来は1学級の生徒数がもっと少なくなれば1人1人きちんと面倒を見て、特徴を見て進学でも進める事ができる。あなた達は不幸とは言わないが、たまたまそういう時代に生まれたからと言われたのです。例えば、予算の問題はあるで

しょうが、1学級30人になるのと35人になるのはどう違ってくるのでしょうか。

野呂部会長

あくまでも国の定員は40人が基本になっています。

C委員

それでは35人と言うのは何でしょう。

野呂部会長

それは青森県の弾力的な運用です。

C委員

そうすると、県でその分を負担しているのですか。

事務局

高校の教員の数を決める標準法という法律があります。基本的に高校の教員の人件費については地方交付税措置されていて、その基本となるのが1学級40人という人数によって学級数を決めて、それに応じて教員を何人配置するかを決めています。県がお金を出すのであれば、標準法を超えて配置する事も勿論可能ですが、限られた財源の中で教員を配置するためには標準法に沿った人数である1学級40人で換算しての教員の配置という事に基本的にはなりません。ですから、30人の学級を作ったとしても、あくまでも生徒40人1学級で計算をして教員を配置する事になります。例えば青森工業高校は弾力化により1学級35人で8学級あるのですが、そうすると実質は7学級しかない形になる訳ですので、教員の配置を考えると7学級規模の配置になります。そうすると、学級が8学級でも教員そのものは国の標準法で見ると7学級分の配置になるのです。人数を少なくすれば確かに目が届くと言えるのかもかもしれませんが、教員の配置基準がそうなっているので教員そのものの数が減ってしまいます。いくら学級があっても子どもの数が少ないので、そういう換算をされるという事が現実にある訳です。そこは35人にするのにも駆け引きがあって、県の財政に対してもお願いをしているのですが、現状としてはやはり40人の換算で計算しておりますので、青森工業高校では8学級分の教員が満たされているかと言うと満たされていないのが現状です。

D委員

そうすると、当然免許外が出てきますね。

事務局

免許外ではなく非常勤の講師等で、教科のバランスを考えて手当とするという方法が

あります。そこの所は人件費等の絡みの中で難しいという事が、現実としてあります。検討会議の場でもそういうお話になったのですが、事務局の説明としては基本的に1学級40人というスタンスでお願いしたいとお話をしました。皆様の方から、少人数学級や少人数指導を是非にという事であれば、御意見として伺いますし、可能であればどうい方法が可能なのかは検討して行きます。

C 委員

前にもお話ししましたが、いじめ問題では目が届かなくて良く分からないと言われますが、それは人数が5人違うからどうという事ではないでしょうが、非常に人数が多くて目が届かないという事であれば、予算的な問題はあるでしょうが、そういう事を避けられるのであれば少しでも少ない方がいいのかなと思います。将来的には生徒が少なくなるのですから、そういう意味で国の基準があるのであれば、そこにまた別の問題が出てくるのかなと思い、その辺が気になりました。

E 委員

学級数については、この考え方でいいのではないのでしょうか。

B 委員

適正な学級数の話が出ていますが、この中に出ているエリアの分け方ですが、市部と町村部という1つの観点も必要でしょうが、例えば西北地区あるいは中南地区をベースとしてエリアを考える必要があります。そういう視点からも地区全体を見て、普通科の何学級の学校がいくつ必要だとかを考えて行く必要があるのではないかと思います。例えば、板柳高校は非常に本来は力を持っていますし、あるいは木造高校や五所川原高校もそうですが、木造高校には西北の中学校のうち、たった1つを除いて他の中学校全部から生徒が来ています。おそらく中南地区もそうだと思います。ですから、市部と町村部という分け方も必要でしょうが、もう1つの視点として西北地区エリアと中南地区エリアという視点からも学校の配置や、それに伴って学校での学級規模を考えて行く必要があると思います。

野呂部会長

地区については、資料1の5ページに出てきていて、その中に地区のバランスを考えた適正な学級を考える時に従来の6ブロックでいいのかという意見があります。また、市部と町村部という分け方がどういうふうになって行くのかという事もありますので、この辺はもう少し検討の対象になって行くのでしょうか。

次の普通科、職業科、総合学科の在り方という事で先程から出ていますが、やはり普通科志向が強いという事が出てきているのですが、その辺についての御意見はありますか。決して職業学科が極端に少なくないという事ではないと思いますが、生徒の志向

から見るとやはり普通科志向が強いようです。ここに書かれている内容のように、割合的には普通科を増やして行ってはどうかという事です。

C 委員

うちの職員で工業高校を終わって採用したのですが、富士通で2年間現場で実際にパソコン関係の仕事をしてきている人がいて、職業相談などをやらせているのですが不得意なようです。考え方がそうなってしまっていると言うのでしょうか。逆に普通高校を出てきている人は簿記とかはできるのですが、ホームページやパソコンとかの技術的な事になるとどうしても大儀がるのです。東芝や日立の話を知ると、高校を出てすぐに第一線で頑張れるかということとそんな事はなく、特に日立では八戸高専や八戸工業大学を出てもすぐ使い物にはならないですし、改めて勉強してもらわなくてはいけないと言います。そういう現状があります。うちの会員で高校を出てなんとか世話してくださいと言われるのは、木造高校の商業科出身の人が非常に人気があり、まず優秀なのです。普通高校には行けるが大学に行くつもりもなく、かといって普通の農業高校や工業高校は嫌いなのでしょうか。そういう人はやはり成績が良く、仕事ができるのです。公にすると募集が集まり過ぎて収集がつかなくなるので、なんとか商業科の卒業生を紹介してくれという社長は、そういう先輩が第一線で活躍している事を知っているからだと思います。

そういう現実が片方にはあるのですが、将来何になるのかはあまり早い時期には分からないので、とりあえず普通高校というのが普通科志向ではないのでしょうか。その間に考えるのです。工業高校を出てすぐに役に立つかということそうではない事を考えれば、とりあえず普通高校へ行くのが無難なのです。また、就職がないという時代背景でもあり、高校を終わってもなかなか就職できないのでとりあえず普通科志向が多いという事もあるのかもしれません。この先どうなっているかと言うと、その時には景気が良く就職がたくさんあれば実業高校へ、という事も考えられなくはないのです。時代背景が相当影響しているという予感を感じます。

D 委員

学科の在り方についてはこれでいいと思います。ただ、普通科を増やすという事については、それは高校に通う生徒がそうなのか、あるいは親がそうなのかは疑問がある所です。中学校ではそろそろ三者面談が始まるのでしようが、親の意識を先生が聞いて、子どもに対して親からのプレッシャーを先生達が非常に感じて、生徒を親の言う学校に行かせようと努力するのでしようが、やはりそうではないと私は思うのです。ですからニーズがあると言いますが、それは親のニーズだと思うのです。ですから、やはり特徴のある学校を作って行かなければいけないのです。少なくとも1～3次産業があるので、少なくとも産業構造全体は変わらないだろうという事で、少なくともニーズは工業高校や商業高校にしてもあるのだろうと思います。普通科、職業学科、総合学科のバランスは時代によって違うのでしようから、時代に合わせて割合を決めていけばいいの

であって、これをなくしようというのは無理があると思います

竹林副部長

やはり入りたい学校とは言っても、最終的には点数で行く訳です。今年の一次調査を見ても、軒並み農業高校の倍率は0.何倍です。それでも工業高校は超えてる訳ですが。職業高校は何学級と言っても、学校の種類によって考えて行かなければいけません。また、電子科と電気科の違いが中学校の先生自身も分からないし、高校の先生に来て説明してもらっていますが果たしてそれで子ども達が十分に理解しているかと言うと難しいものがあります。やはり、日々カタカナで新しいものを作るのではなく、本当にこの学科でこういう講座を勉強するのだという基本的な形で、名前なども付け変えて改編して行く必要があります。

D委員

例えば、知事が示している農工ベストミックスにおいて、中南地区に土を使わない農業というものも出てきます。農業高校でも、ただ土作りだけがこれからの農業ではないので、学科を改編する時には県教育委員会で、県が目指す農業に対して学校で教える農業のきちんとしたスタンスがないと駄目だと思います。今までの農業高校は土作りから始まってと言いますが、やはり新しい農業を取り入れて行く場合には少なくともITを分かっているといけません。今に合ったような技術を身に付けさせる事になると、農業高校とは言っても毛嫌いされる学校にはならないだろうと思います。我々の年代には農業高校は非常にきついというイメージがあるが、今は農業も工業化される時代なので、それが果たして農業高校なのか工業高校なのかという事はありますが、その在り方についても考えて行くべきなのでしょう。県政の問題も入ってきますが、少なくともこの中南地区において、今の県のスタンスは農工ベストミックスという事で新しい農業を取り入れて行こうという方向性が将来的にあるので、農業高校においても今から準備しておかなくてはならないと思います。

野呂部長

大体共通してるのは、専門高校のニーズがないのではないのだという事です。なくするのではないのです。

第2専門委員会の意見と重なるのですが、基本的な学科と言いますか、分かり易い学科を設置すべきだという意見と、特に農業の場合は県が目指す農業に合ったような学科を作るべきなのではないかという意見がありました。ただ、先程から出てますが、適正な学級数については普通科をやや増やして行くという事は共通しているのではないのでしょうか。その他に総合学科等も後程出てきます。

B委員

西北地区では木造高校、中南地区では尾上総合高校があり、それぞれの特徴があると思います。総合学科については資料で高校長協会の意見が書かれていますが、そういう事でいいのではないのでしょうか。ただ、中身としては、木造高校は6系列を設定していてそのモデルの系列に沿って各生徒がそれぞれ科目を選択して行くシステムになっています。ホームルームは系列毎ではなく、1つのホームルームに色々な系列の生徒が混在しています。学校によっては、系列毎でホームルームを設けている学校もあると思います。生徒達がどうやって選択すれば自分の目標が達成されるのか、その選択の方法については1年生の時から指導を始めます。これは生徒だけでなく保護者にも来ていただいて選択についての説明会を行い、その後色々な希望を聞きながら選択を決定して行きます。進学を目指す総合学科という事で、発足当時から目標として指導にあたっています。

野呂部会長

総合学科について何か御質問ありますか。現状としては、生徒の選択肢を広げるための施設整備や人員配置は厳しい状況が見られる、これまでの実績を検討する必要があるというような事が書かれています。その辺が総合学科の在り方についての課題になって行くのではないのでしょうか。

全県的視野での普通科、職業学科、総合学科の地区毎の募集割合をどうするかについてですが、先程も説明がありましたが、学科の見直しを進める中で自然と学級減するのが理想的です。先程申し上げたように普通科、職業学科、総合学科の割合は地区でもかなり違うようですので、第1専門委員会で今後検討して行くのではないのでしょうか。

適正な学校規模を実現するための方策については、統廃合や校舎制も出てきましたが、全体的にはやむを得ないという意見が大分多かったように思われます。御意見ございませうでしょうか。ただ一律に県全体で統廃合するのではなく、地域的な実情もあるので十分な話し合いが必要だと思います。

竹林副部会長

10年の間に700人も減る訳ですので、今の形では無理ですし、やはり何らかの形で統廃合は必要でしょう。また、校舎制は地域的な事も考えて行かなくては行けませんし、人数が少ないからなくするのではなく非常に難しいです。これからどこの学校とどこの学校を、と煮詰めて行かざるを得ない気はします。

野呂部会長

学級数の絡みも出てきますし、自然な形での議論になって行くのかなと思います。

竹林副部会長

後は校舎の規模ですよね。8学級とかを実施した場合にも新しく作る事はできないの

でしょうから、既存の学校でそれなりの数を収容できるのかも考えて行かないといけません。例えば深浦高校が8学級というのは全然駄目ですので、五所川原高校や木造高校など、西北地区であればどこの学校であればそれくらいの規模を持って行けるかを考えておかないといけません。

野呂部会長

過去の実績から見ると弘前高校が10学級ですし、青森高校等の規模であればその辺まで持って行けるでしょう。それ以下の規模でないと校舎を新しく造らないといけなくなります。今の状態では、普通高校であれば平成20年度で最高で青森高校、弘前高校、八戸高校が7学級になり、8学級で残るのは青森工業高校、弘前工業高校、八戸工業高校、弘前実業高校です。今の生徒数の減少から考えるとやむをえないという事でよろしいでしょうか。

D委員

一気に統廃合という訳ではありませんからね。年度年度で状況を見ながら、結果的には何年かで統廃合はするのですが、それはその学校を存続するんだという意味での統廃合なのだと書いておいた方がいいと思います。

意見は皆さん違うので、やはり基準を決めるのは県の教育委員会です。悪い人になるのは行政でなければこういうものはできません。民間サイドの意見を聞く場というがあるので、それに対しては我々がやらなくては駄目だと思いますが。

野呂部会長

それでは10分間の休憩を入れます。

~~~~~ 休 憩 ~~~~~

野呂部会長

統廃合の進め方という事ですが、新しいタイプの学校の可能性というよりも、現状の学科の再編等という方向性だと思いますが、この辺について何か意見はございますか。

D委員

私は今決めるべきではないと思うのです。国の教育改革が進んで行くと全国的な考え方が出てくるのでその時にやればいいのかと思います。

野呂部会長

高校長協会から3つくらい御意見が出ていますが、この辺もこれからの議論という事でよろしいでしょうか。

竹林副部長

これで新しく作ったとなると、なくなる高校の地区の住民が非常に反発するでしょう。

野呂部長

統廃合でという事ですが。

次は5ページの地区毎の学校配置についてです。現状の6地区という事ですが、今の学区は全県一区になっているのですが、やはり地区が中心の範囲にはなっていると思うのです。ただ、現実として西北地区と中南地区については、私も過去にいた経験があるので思うのですが、西北地区から中南地区へ200名近くも行くのではないのでしょうか。私立も入れますと、それくらいの数になると思います。やはり、現状の6地区という事も必要になるのではないのでしょうか。

竹林副部長

我々は西北地区は分かるが、中南地区の事はあまり良く分からない訳です。やはり、6地区で考えて行かなくてはいけないという気がします。

野呂部長

基本的には6地区という事ですね。第1専門委員会の方はこれでよろしいでしょうか。

次は第2専門委員会の方に入っていきます。検討事項については、最初は共通認識を踏まえて学科・コースの在り方を考えましょうという事なのでしょう。大体ここに書かれているような事が今の社会の変化だと思うのですが、これらについて何かございますか。

次は学科・コースの今後の方向性という事で、各学科・コース及び系列の検証についてですが、高校生に一般常識がない、やはり目的意識、職業観、勤労観を身に付けさせるべきだ、挨拶や時間を守る事のような基礎基本をしっかりさせる、という意見が出ています。

C委員

人の話を聞ける人間を作って送り出せば、こういう事はすぐに身に付くと思うのです。いわゆる素直さがない人は後で教えても難しいと思います。例えば、電話の作法あたりを就職が決まった人を集めて教育するのですが、その時は電話のかけ方や挨拶はきれいにできるのですが、実際に職場に入って職場の先輩がそうでなければ、一週間もするとそうでない人にきれいに習ってしまうのです。ですから、新しい人を採用する時にはそこにいる人を教育した方がかえって早いという気がします。色々ありますが、素直にも

のに向かって行く資質や人間性を教育する事が第一で、後は会社毎で条件も違いますので、入社してから訓練しても対応できると思います。

#### 竹林副部長

高校生と言いますか、保護者の方が問題かと思えます。参観日に行って人が話しているのに、後ろで話をしている人の話を聞けないという事が結構あります。この会の議題ではありませんが、家庭教育にもっと力を入れて行かざるをえないのではという気がしています。

#### C 委員

全くそうだと思います。

以前、当会議所で就職が決まった人を50人くらい集めて、就職が決まった会社がお金を出して3日間程度の研修をしたのですが、その会社の社長から、この研修をすると採用した社員が来なくなると言われました。どうしてかと聞くと、研修を受けた人が会社でこんなに厳しい事をやらされるのであれば会社でやって行けないと言う事でした。そこで社長が見に来たのですが、研修でやっているのは、電話のかけ方、挨拶の仕方、話し方やそういう基本的な事です。社長としては、研修で相当ひどい事をやっているのだらうと思って来たようですが、これで大変だと言うのであれば今の内に辞めてもらって良かったと言われた事があります。そういう事があるくらいですので、最低限の常識は必要ですが、人の資質なので仕方がない所もあるのですが、前向きにものをやろうという思いがある人はどんどん直って行きますので、むしろそういう人間性を育てる方が先かなと思います。

#### D 委員

やはり学科・コースの在り方は、その時代によって違って来るのだらうと思いますが、少なくとも全教科において、今一番民間の会社において必要なのは、携帯電話ではなくパソコンをしっかりとできる人がどの会社でも欲しいのです。また、パソコンも色々必要になってくるのですが、我々のような商業系になりますと簿記の仕分けができないとパソコンに入力もできません。ですから時々によって違うのでしょうか、少なくとも中学校ではパソコンをやっていますが高校ではどうなのでしょう。

#### 野呂部長

情報という教科が必修になっていますので必ず学ぶ訳ですが、情報 A として2単位くらいの学校が多いのではないのでしょうか。専門高校の方ではかなり商業的なものやと思います。ただ、経験があるのですが、パソコンをやっているでもこれを打ちなさいと言っても字が読めないのです。それでは打ち込めない訳です。

#### D 委員

ですから、30～40年前とは違って今はパソコンが常識になっています。むしろ今の50代以上の人で、パソコンができない人はどんどん辞めて行く時代です。パソコンは机の上にあるが、それにチャレンジする意欲がなくついて行けないと、それが若い人に馬鹿にされます。そういう事があるので、少なくとも昔の基礎学力と同様に、パソコンを覚える事はこれから大事になって来るのでしょうか。コースはコースとして、その時代に即してやって行けばいいのですが、基礎的なパソコンがある程度やれないと通用しないというのが民間サイドの意見です。

#### C 委員

それはそうですね。先日に頼まれてある会社で1人採用してもらったのですが、10日もしたら顔色が真っ青になって、とてもパソコンがついて行けないので辞めさせてくださいと言われて辞めてしまいました。これからは、パソコンと英会話ができなければ役に立たないと思うのです。英文法も大事ですが、それはそれとして、学校のクラブでも同好会でもいいので、高校を終わったら普通の英会話とパソコンができるという事が必要だと思います。

#### A 委員

パソコンについては、今は小学生からやっていますので、これからは間違いなく中学校になればある程度はやっています。私達の年代はきついが、今の子ども達は大丈夫だと思います。

#### 野呂部会長

専門高校の方向性という事については、学科名はシンプルにしてあまり細分化するのではなく、シンプルに学習内容を濃くした方が良いという意見ですが、その辺についてはよろしいでしょうか。

#### D 委員

学科・コースを増やしても、あまりに専門的になるとその関係の先生をどこから引っ張ってくるかが問題ですよ。ですから、あまり増やすのもどうかと思います。

#### 野呂部会長

農業高校も園芸科ではなく、凄い名前になってきているのですね。

#### D 委員

それだけ農業も分業になってきているのですね。

#### 野呂部会長

大学あたりでは横文字を使って何かやると、一時的に学生が集まるという事がありました。これからの学科・コース等については、再編成や統合等を含めて検討になるでしょうということによろしいですね。

7ページですが、普通科における全日制単位制ですが、何か御意見はありますか。青森東高校が卒業生を初めて出すのは来春で、八戸北高校が今年から実施しています。弘前南高校は平成20年度から実施します。普通科における全日制単位制と言うと、3校とも受験対応を考えている学校です。

#### 竹林副部会長

推移を見ないと分からない気がします。結局今の人は人間関係を構築できない訳ですから、単位だけを取ればよかった場合に、自分でカリキュラムを組んで好きな時間に学校へ行けばいいのでは、どうなのかなと少し疑問があります。この3校の様子を見てから発言したいと思います。

#### 野呂部会長

8ページに行きますと、新しい学科の設置の必要性という事が出ていますが、21世紀に必要とされる学科や青森県でなければできない学科は無理でしょうか、という意見が出ています。下北地区で原子力学科をという話もありましたね。これも今後の検討が必要でしょう。

#### D委員

最終的には県政の問題なのですが、農業あるいは水産でこれから県がどのような形でやって行くのか、後継者をどう育てるのか、育てた人が飯を食って行けるのか、そういう事も考えて行かなくてははいけません。そうすると、青森県の特徴が出てきますよね。また、人材が県外に逃げない方策を取るためには、県内で必要とされる人の資源の育成を、教育界が県政と一緒にやって行かなくては駄目だと思います。

#### 野呂部会長

高校長協会の意見では、新しい学科の必要性を感じないという意見もあります。人文から何から青森県の学科は多いですね。人文、英語、理数、表現、美術という学科があります。

#### C委員

表現科とは何をする学科ですか。

#### 事務局

表現科とは、設立当時に本県の子供達はなかなか自己表現ができないような消極的な子供が多いという事で設置されました。舞台芸術、映像表現、ダンス等の色々な専門的な分野で、外部から有名な先生も呼んで来て非常にいきいきとやっています。しかし、割と観念的な部分がありますし、今は一生懸命頑張っている所だと思うのですが、実際にその後はどうなったかと言うと、普通の専門学科のように直接結びつく学科ではありません。自己表現をどうやって出して行くかという学科ですので、人間的な教育には役立っていると思います。そういう分野の教育を行っています。

#### C 委員

表現のそういう事情は分かりますが、不得意な人は萎縮するかもしれません。

#### 野呂部会長

やはり、今ある専門学科については再考と見直しが必要なのではないかと、というのが統一した意見だと思います。まだ成果が確認されていないのに、どんどん新しい学科を作ってしまう事に問題があるだろうし、もう一回考える必要があるかだと思います。

後はずっと同じような事が書かれていて、括り募集が出てきています。

#### A 委員

先程聞いてこれはいいなと思いました。子供達も行きたい学校に行けなくて入れる学校という事で最後にやむをえなく入る場合と、最初からここに行きたいと入学してきた場合と様々あるのですが、実際に行っても合わなかったとかはあるのでしょうか、このように入学して1年で学科を良く見て、2年から学科が分かれるのであれば非常にいいと思いました。

#### 野呂部会長

当然、全てがメリットだけでなくデメリットもあるのですが。

#### A 委員

実際に学科へ分かれた時に、学科の希望数が多かったり少なかったりすると旨く行かないのではとも思います。

#### 野呂部会長

青森県では実施していませんが、他県では実施しています。近くでは秋田が30年くらい前から実施していますが、その辺のメリットとデメリットが出てきているようです。

#### D 委員

学科・コースの細分化はしない方がいいと思います。行政に関わっていたのですが、

国で示す指針はたくさん出てきますが、例えば、ある一時期は生涯学習という言葉が出てきましたが今はあまり出なくなっています。あれは文部省と総務省で色々考えて始めたのですが、これまでの事を考えるとやはり流行があるので、そうすると失敗した時にそれを取り戻せなくなります。ですから、高校あたりは細分化はしないで、スタンダードなものを作り上げて行く必要があると思います。昔は中卒、高卒、大卒という言葉がありました。家庭に理解があって金がある人は学校を選択しなければ大学に入れる時代なので、高校で何を教えるのかと考えると、教科もそうですがそれ以外も何か在り方を検討した方がいいと思います。結論としては、細分化はしない方がいいと思います。

野呂部会長

第2専門委員会も大体そのような意見ですね。各委員も大体そのような意見でよろしいでしょうか。括り募集はいいという意見でしたが、初めて聞く言葉かもしれませんがどうでしょうか。

竹林副部会長

私立高校では結構実施していますね。結局、目的意識をはっきり持っていないものだから1年で基礎的なものを学んで、次から選ばせるという形ですので、そのメリット、デメリットは分かりませんが、目的を持っていない子ども達にとってはいいのかなという気はします。

C委員

目的を持っている人の方が少ないですよ。小学生に将来は何になりたいのですかと聞くのと同じようなものでしょう。夢は語るけども、本当にその方向に進むのかと言うとそうではない気がします。

竹林副部会長

先程見たように、園芸の場合でもたくさん学科ありますが、子ども達は理解していないと思います。ですから、入学して1年の段階で色々学んで、その後に専門に入っていければいいと思います。

野呂部会長

全体的に見て、今後こうあるべきとか、何か意見はありますか。  
それでは、予定より大分早いのですが、これで協議は終わりたいと思います。

閉会

## 司会

12月20日に検討会議が開かれますので、その会議の方には先程お渡しした資料3として各地区部会の意見を提出させていただきたいと考えています。それから、今日の会議の内容については、議事録をまとめる時間的余裕がありませんので、部会長からの口頭での報告という形をお願いしたいと思います。先程申し上げたように、地区部会の意見を是非検討会議や専門委員会にお伝えしてほしいと思います。

次回は2月を予定していますので、専門委員会で話された内容については資料提供させていただきますので、それについての御意見を事前に準備していただきたいと思います。議事録については、その都度送付させていただきます。大変長文になり読むのも大変かとは思いますが、内容についてはホームページ等で一般の方々にも広く公開していますので、地区の方々からの御意見をいただければと思っています。

これで第2回の西北・中南地区部会を終わります。大変長時間ありがとうございました。